

第17回 水と光のまちづくり推進会議（書面開催）

1. 開催日： 2026年2月20日（金）

2. 回答者： 吉村 洋文 大阪府知事
横山 英幸 大阪市長
鳥井 信吾 大阪商工会議所会頭
松本 正義 公益社団法人関西経済連合会会長
永井 靖二 一般社団法人関西経済同友会代表幹事
溝畑 宏 公益財団法人大阪観光局理事長
橋爪 紳也 大阪公立大学研究推進機構特別教授

3. 議案：

（1）審議事項

第1号議案 水と光のまちづくり推進会議 基本方針の改訂について
第2号議案 水都大阪ビジョンの改定について（水都大阪ビジョン2030）

（2）報告事項

報告事項1 水都大阪の取り組みについて
報告事項2 大阪・光の饗宴について
報告事項3 光のまちづくり推進委員会の活動について

4. 結果：

審議事項の全ての議案について承認された。

以上

水と光のまちづくり推進に関する基本方針 ～「水と光の首都大阪」の実現に向けて～

大阪では、2001年の「都市再生プロジェクト」採択以降、行政・企業・市民が連携し、『水都大阪』の再生に取り組んできた。その結果、都心部の河川に遊歩道や船着場が整備され、それらを活かしたクルーズや規制緩和を活用した水辺の民間ビジネスが生まれるなど、大阪はトッランナーとして、常にわが国の水都づくりをけん引している。

また、公民が協力して進めた護岸・橋梁・高速道路橋脚・ビルのライトアップなどの日常的な夜間景観の創出・永続化に向けた取組の拡充に加え、冬の風物詩として定着した「大阪・光の饗宴」など、大阪は日本でも有数の美しい光景観を楽しめる都市ともなった。

2025年大阪・関西万博開催時には、OSAKA リバーファンタジーや大阪・光の饗宴特別点灯など、これまでの取り組みをより発展的に展開し、水と光を活かした大阪の都市魅力を世界にアピールした。

我々は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした万博のレガシーを継承し、水と光を活かした大阪ならではの都市魅力を一段と高め、安全・安心で魅力溢れる「水と光の首都大阪」を実現し、多様な人や企業、新たな投資などの呼び込みにつなげることで共創を促進し、大阪の持続的な成長を推進するため、以下の方針を掲げ、オール大阪で取り組む。

◆世界に誇る「水と光のシンボル空間」の実現

大阪城周辺地域から中之島、ベイエリアまでをつなぐ「東西軸」と都心部をロの字に流れる「水の回廊」を中心に、船が行き交い、人々が水辺で集い憩う、他都市に類を見ない水都大阪の風景づくりを進める。また、御堂筋や中之島を光で彩るとともに、民間主体の夜景づくりに取り組むことで、「光の都市軸」を創出する。こうした取り組みでは、デジタル技術なども活用し、世界に誇る高質な「水と光のシンボル空間」を実現する。

◆水と光の広がりや厚みによる新たな魅力創造

多彩な民間の知恵を最大限活かした「水の回廊」とベイエリアなどとの連携、日常的な夜間景観づくりの継続、「大阪・光の饗宴」における地域連携などにより、水と光の魅力を大阪のまち全体への魅力に広げる。あわせて、文化・スポーツ・グルメ・イベントなどとの連携によるナイトコンテンツや観光メニューの創出を図り、水と光を都市魅力発信のメインコンテンツとして進化させることで新たな魅力を創造する。

◆誰もが憧れる「水と光の首都大阪」ブランドの確立

大阪を訪れる人々に感動を提供するとともに、大阪の水と光の魅力を、その歴史や持続可能性を含めて、国内外に対して戦略的・効果的に発信をすることで、世界の誰もが憧れ、大阪の人々が誇りにできる「水と光の首都大阪」ブランドを確立する。

◆多彩な「民」の参画・共創とビジネスの創出・活性化

公民の強い連携のもと、水と光を活かした都市魅力創造の実現に向けて、水都大阪の持続可能な成長をめざす公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム」によるコーディネート機能や、「光のまちづくり推進委員会」による夜間景観の創出、「大阪・光の饗宴」の開催による魅力づくりなどを通じて、担い手としての企業やクリエイティブな人材などの多彩な「民」や学、地域、市民の参画・共創を促し、新たなビジネスの創出・活性化やまちづくり活動の促進を図る。